R7 楡木小学校　学校通信
No.1
なりたい自分になる！
In 楡木サラダボウル
令和７年４月９日
文責　余宮

令和７年度が始まりました。本年度も楡木小をどうぞよろしくお願いいたします。

サラダボウルのような共同体に

始業式 2 日前の朝。一足お先に学校へ登校するかんさん。大きな声でのあいさつもほろろに、じゃんけん対決です。そして見事、かんさんの勝利。最初から負けました。とほほ…

こうたさんは、挨拶よりも先に、話しかけてきます。

「僕は、クラス替えが気になります。めっちゃ楽しみです」

そうだよね。クラス替え、席替え、委員会編成など新しい仲間との出会いは、誰しも気になるもの。もうちょっと楽しみに待っておいてね。後２日後には、いろんなことがわかる。

じゃんけんでかかわりをもとめるかんさんにも、新しい出会いが楽しみ（もちろん不安もあるでしょうが）なこうたさんにも、この春は、いろんな人ものコトとの出会いと対話が、ありとあらゆるところで起こることでしょう。

ただ、多様な人々が集う共同体には、多くの課題が生まれます。だって、多様なんですもの。自分とは違う人との出会いは、まずもって「わからない」が先行するはず。みんな一緒が楽で、安定で、安心でいい？全員前に倣えで同じが、一番いい？？

本当でしょうか。法隆寺最後の宮大工棟梁といわれた故西岡常一さんは、このような考え方に木材の選び方を例に挙げ、次のような警鐘を鳴らしています。

> 本当なら個性を見抜いて使ってやる方が強いし長持ちもするんですが、個性を大事にするより平均化してしまった方が仕事はずっと早い。（中略）そして逆に今度は使いやすい木を求めてくるんですな。曲がった木はいらん。捻じれた木はいらん。使えないんですからな。そうすると自然と使える木というのが少なくなってきますな。それで使えない木は悪い木や、必要のない木やというて捨ててしまいます。これでは資源がいくらあっても足りなくなりますわ。その上、大工に木を見抜く力が必要なくなってくる。木を使う大工が木の性質を知らんのですから困ったことになりますわ。

さらに、西岡さんは、樹齢 1000 年の檜は同じく 1000 年は生きる建物にもなるとおっしゃいます。それは一本ずつ違う檜それぞれの癖を見抜いて、それに合った使い方をするから、1000 年以上生きる建物ができるのだ、と。樹齢 1000 年の木の偉大さや尊さを知り、この木の命が全うできるように、自分の精一杯を捧げる。それが、宮大工の役割であり、個性だと。

本当に、胸が熱くなります。

多様性のもつ強靭さ、醍醐味を知り尽くす西山さんから生まれる言葉には、言葉を超えた説得力があります。そうだ、共同体としての強みは、多様性からしか生まれないんだなあ。

多様性に富む子どもたちを目の前に、サラダボウルという言葉が浮かびました。多様性に富む社会は、サラダボウルに例えられることがあります。トマトやキュウリなど一つひとつの素材が生きているにもかかわらず、サラダとして一つの料理に仕上がっているサラダボウル。みんなが主役で、みんなで一つ。そんなサラダボウルのような多様性のある共同体は、優しく、強靭で、それでいて今まで見たこともないようなイノベーションに満ちている。

冒頭のかんさんやこうたさんのように、他者を気にし、リスペクトしながら、自分らしく成長できる、多様性を認め合える「みんなで『なりたい自分』になる楡木小学校」であってほしいと願わずにはいられません。令和 7 年度もどうぞよろしくお願いいたします。

学校通信に登場するお子さんのお名前は、今号以降もすべて仮名です。